

連盟ニュース

318

神奈川 7

2011.7.12



『隆盛なる普賢岳』長崎県・雲仙普賢岳にて 撮影：鳥越章夫(<http://tory.com/>)



神奈川県勤労者山岳連盟
〒221-0822 横浜市神奈川区西神奈川1-18-2 永田ビル3階
TEL/FAX 045-434-2726 <http://www.k-rouzan.net/>
発行責任者 後藤 真一
振込先 郵便局 世界貿易センター内局 #00290-9-15228
他金融機関からは 029店 当座0015228

7月号(318) 目次

「スポーツ基本法の成立と課題」

新日本スポーツ連盟 神奈川県連盟理事長 石川 正士 3

《会山行紹介》

ネパール東部・カンチェンチュンガ山群 「クンバカルナ7710m」ヤマタリー氷河～周辺
アルパインクラブ横浜 竹田幸司 4

《お知らせ》

第32期下期 神奈川県連盟臨時総会のご案内 3

《報告》

ハイキングリーダー学校実技山行/十二ヶ岳 横浜こぶしの会 斉藤依子 6

第4回全国基金担当者会議報告 副理事長 田村和寿 6

新スポーツ連盟神奈川県連盟第43回定期総会参加報告 副理事長 田村和寿 7

県労山と新日本スポーツ連盟について(1) 基本理念と運動 会長 中山建生 7

7月常任理事会報告 9

6月事務局長会議議事録 10

6月自然保護委員会報告 14

神奈川県勤労者山岳連盟各会の活動報告と予定 12

川崎労山、川崎柴笛、AC横浜、横浜HC、こぶし、藤沢山の会、相模AC、みずなら、
カモの会、山ブキ、M&C

県連のスケジュール/全国会議行事予定 14

第14回労山自然保護講座 秋季特別講座 の案内は6月号をご覧ください

第18回 全国ハイキング交流集会in伊豆(2011年)の案内は6月号をご覧ください



季節の花300より 朝顔

スポーツ基本法の成立と課題

新日本スポーツ連盟神奈川県連盟は、第43回定期総会を6月11日に開催しました。総会決議の「スポーツをめぐる状況」の項で、スポーツ基本法の要点と今後の課題について次のように述べています。

『2010年10月文部科学省は、「スポーツ立国戦略」という文書を発表しました。この文書をもとに「スポーツ基本法案」の検討が進められました。国会議員超党派のスポーツ議員連盟では、プロジェクトチームの検討が急ピッチで進められました。法案アドバイザーの識者を含む会合が公開で行われ、5月28日には衆院文部科学委員会での参考人質疑を経て、スポーツ議員連盟総会でスポーツ基本法案を承認しました。そして31日、与野党共同で衆議院に提出されました。法案は、1961年に策定された現行のスポーツ振興法を全面改定するもので、「スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことは全ての人々の権利である」と明記しています。新日本スポーツ連盟は、2月の第一回評議員会で、立法化にあたっては、スポーツが全ての国民の権利であること、権利を保障する国及び地方公共団体の責務を明確にすること、スポーツ団体の自主性、自律を保障するとともにスポーツ団体の権利と役割を明記すること、スポーツの安全、保護、環境保護などを盛り込むことなどを提起し、国民的討論を経たスポーツ基本法にするために全力を尽くすことを表明しました。』

6月国会でスポーツ基本法が成立しました。前述した、立法化にあたっての新日本スポーツ連盟の提起を軸にスポーツ基本法全体にわたって深く検討することが求められています。新日本スポーツ連盟が創立以来掲げてきたスポーツ権の理念が明記されたことは、国民のスポーツ権を確立するために一歩前進と言えます。それは、長年にわたる国民のスポーツ要求と運動の反映でもあります。しかし、国による政治的、経済的利用の危険性、施策の内容、選手強化と支援などその運用には多くの課題が伺えます。それだけに基本法の運用を国民のスポーツ要求に沿って国民の運動として広げることが重要だと考えます。

(新日本スポーツ連盟神奈川県連盟理事長 石川 正士)

第32期下期 神奈川県連盟臨時総会のお知らせ

開催日時 2011年9月11日(日)
17時30分より21時まで
開催場所 かながわ労働プラザ(石川町駅北
口下車3分)

代議員は、会員10名につき1名、10名までの会は1名選出して下さい。但し、代議員は本連盟の理事・会計監査を除きます。

議案 32期下期活動報告と
9月以降の活動予定
神奈川県連盟規約の改正
神奈川県連盟規定の改廃



会山行紹介

「クンバカルナ7710m」ヤマタリー氷河～周辺

アルパインクラブ横浜 竹田幸司

期間：2011年4月5日～5月29日（カトマンズ発着：4月16日～5月18日）

山域：ネパール東部・カンチェンチュンガ山群

メンバー：竹田幸司（アルパインクラブ横浜所属） 竹田章彦（息子）

目的：「Kumbhakarna7710 Expedition2012」の偵察山行

（労山事務局海外委員会「高峰登山計画・報告書」提出）

行動記録：

4月5日0:20/TG661にて羽田から単身出国、バンコクでTG319に乗換10:15カトマンズ着。

4月6日～4月15日カトマンズ市内登山用具店にて登山用具の種類・サイズ・価格調査。店主へ来年EXP計画しており価格調査をしている旨説明価格交渉。現地エージェント（ノマド・ネパール）打ち合わせ、オーナーMr.カルマ、チェリン、ゲルブの各シェルパと今回偵察山行の日程・予算打ち合わせ。翌日来年予定のEXPに関して同社の経験・協力体制・予算等を打ち合わせる。またメールで情報を頂いたコスモ・トレックの大津氏へお礼の挨拶に伺う。神奈川大P（カンチェンチュンガ主峰8586m計画）江崎氏の紹介を受け今回のスケジュール・ルートを伺う。カンチェンチュンガ南・北のBCへ行き、ポクター（6135m）に登り、グンサを経由しグンサコーラからタブレジュンへ戻る予定とのこと。我々のルートと交差するので現地での情報交換をお願いする。「4月13日章彦と合流」。同エリアへのアクセスは従来スケターへ空路があるが、現在滑走路工事中で閉鎖。カトマンズからピラトモールへ空路、ピラトモールからタブレジュンへ山岳道路を走るバスを使用とのこと。（我々のチームはガイド・クック・ポーター3名を含め合計7名）交通費を抑えるため全行程ローカルバスを利用することにする。またキャラバン中の宿泊はテントよりゲストハウス（GH）が安価でGHを利用。

4月16日4:00カトマンズ(1337m)出発18:30ピラトモール(126m)着。翌17日も山岳道路を走るバス(4:00ピラトモール発21:00タブレジュン着)に揺られさすがに疲れ18日は休養・停滞を決め込む。（来年はスケターまで空路で1時間の見込み）。タブレジュン(1820m)で1日休養、翌4月19日キャ

ラバン開始。一気に高度を下げミトゥルン(890m)へ、真夏の暑に耐える。ミトゥルンからタモール河沿いに徐々に高度を上げ4月21日にグンサコーラに入りシャカトン(1650m)で初めてクンバカルナ山頂を見ることができた。ここで35年前に世話になったポリスに会い話が弾む。4月23日アムジラッサ(2315m)で一日休養。カンチェンチュンガ南BCから降りてきた仏女性と会う（旦那がカンチェンチュンガを登攀中）今年は天候が不順で午後降雪がある。ヤルン氷河からヤマタリー氷河側へのルンバサンバ・カルカルートはラブサングパス(5161m)の積雪量が多く通過が困難でミルリンガパス(4645m)を通過してきた由。自分はクライマーではないのでシェルパー一人を連れてカトマンズへ戻る途中とのこと。来年クンバカルナの仏ルートをEXPする旨を伝えると「エクセレント！」とエールを頂く。又グンサでの宿泊はKGHが新しくきれいで電気も通じておりホットシャワーがあるのでお勧めと同GHの名刺を頂く。午後米国人と思われる6人Pのトレッカーが降りてきて昼食をとり早々にGHを後にする。4月26日グンサ(3415m)着、早速仏女性から情報を頂いたKGHに入る、新しくきれいで気に入る。ホットシャワーを浴びキャラバン中の埃と汗を流す。ここグンサはこの辺りで一番大きな部落で北・南・西からの主要交易場所となっており、人家も多く物も豊富。

BC予定地はここからヤマタリーコーラ沿いに1000mほど登った4500mの地点に設営4月29日。高度順応を含め5月5日までBCに滞在する。高度順応が出来ていればBC・グンサ間は登り4～5時間下りは3時間ほど。グンサを休養地として利用できる。BCはデュダボカリと呼ばれる小さな池があり周りは牧草地で夏季はヤクの放牧地になるらしくトレールはしっかりしている。背後を大きな岩に守られ雪崩・落石



4月21日 初めてクンバカルナが見えるSektum(シャカトン)1650m。奥はグンサ



4月26日 Ghunsa(グンサ)3415m。奥はカバ`チン

の危険もなく風も少なく安心・快適に過ごせる場所である。安全祈願塔もありクックのニマは朝晩お祈りの「オムマニベメム」を欠かさず唱えていた。BCより上部はモレーンを越えヤマタリー氷河に入る。氷河に降りてもクンバカルナは見え、トレッキングでもこの地が敬遠されるのが理解できる。午後になると天気は崩れ夜間にかけて降雪がある。氷河を4800mまで登りようやくクンバカルナが姿を現す。4900mまで登るとヤマタリー氷河左岸のアイスフォールにノーマルルートの取付きと思われる個所があり、アイスフォールの左側斜面が比較的緩やかでここから取り付けそう。大きなお結び形の岩もあり下部を「取付点」としたい。C1予定地まで登りたかったが、トレッキングパーミッションではここまでが限界で（規定ではBCまで）これ以上登るとエージェントの責任問題になるらしく、ピッケルもアイゼンもないので無理と言われる。ここまで来るのにBCから5時間ほどかかり取付き部にはデポ地が必要と思われる。しばらくモレーンで休み双眼鏡でルートを追う。C1予定地からC2予定地のアイスフォール右岸は懸垂氷河となっておりアイスフォールの中にルートをとらなければならないだろう。C2予定地からC3への「新参者の稜」下部は比較的広い部分があることも確認できた。いつまでも頂上を眺めていたい気持ちを振り切りBCへ下る。氷河の両側はモレーン状の高い崖で、頻繁に落石の音が響いて緊張する。赤布を頼りにモレーンの高い崖をよじ登りBCへ戻る。出発前の3月初旬1981年秋3人で挑戦し、7400mまで登られた篠原氏と同ルートの状況を伺ったがヘッドウォール下部が一番困難な場所とのことが理解できる。

翌5月5日はC1上部の確認にBC裏山（5000m）に登る。が北東側のリッジ（5500m）に取付くにはロープなどの登攀用品が必要になり、来年度高度順応とルート確認のための地点を見るにとどめる。翌日グンサに戻ると神奈川大P（4名）が同じKGHに宿泊されており情報交換する。カンチェンチュンガ南のBCに今年は7P入っており、韓国隊がクンバカルナをヤルン氷河から取付いたらしが登れず（登れば初登攀ルートと思われる）との情報を頂く。同隊はボクトー（6135m）の許可をとり南側からC1まで試登したとのこと。たまたま同隊のサーダーが35年前のジャヌー北壁と一緒に登ったアン・プーリ・ラマシェルパで、来年度ノーマルルートを登る旨を伝えると行ききたそうだった。一日グンサで休養し5月8日我々

はグンサからヤルン氷河側へ抜ける途中のセレコーラ（4130m）へ向かう。北側のヤマタリー氷河全体が見渡せるコル（4900m）まで登る。天気が良ければC1上部が見渡せたがあいにく雲が邪魔をしており、氷河全体と頂上先端部のみを見る事が出来た。

グンサからキャラバン復路は、来年度空路を予定しているスケターへの道をとることにして、チルワ（185m）から東側の尾根を登りガディダング（1892m）で1泊スケター（2420m）に5月16日到着。ガディダングからスケターまで大規模な道路造成中で、開通が間に合えばキャラバンが1日短縮できそう。スケター空港は赤土で盛り土をした長い滑走路が横たわり数台の建機が働いていた。翌日タブレジュンへ降りジープを探す（タブレジュンからは往路の山岳バスに懲り復路はジープ「9人乗り」を10000ルピーに乗せてチャーター）。18日夜明け前のピラトモルを出発、夕方スモッグ漂うカトマンズに到着。

5月19日～5月28日カトマンズでカルマと再三打ち合わせ。サーダーは誰にするか。ポーターはどこで採用か。シェルパの同行は可能か。キャラバン中のテントと上部テントはどのメーカーを使用か。ソーラー発電機は使用可能か、衛星通信でメールは可能かなど等を聞き取り調査。グンサから上部はグンサで宿泊したKGHオーナーの息子（クライミングシャルパ）を雇うことで上部ポーターの確保ができる。ポーターはカトマンズから連れて行く。（帰路荷物は半減するのでグンサで半数解雇）現地採用のポーターはトラブルが多いと談（江崎氏からも同様アドバイス）。サーダーはキャラバン～BCまでとBC上部の登攀サーダーと2名体制にしたい旨をカルマから提案され。私もBCリーダーが欲しく思っていたので同意し誰を考えているのか確認する。BCまでのサーダーは今回同行したチェリンシェルパを、BCより上部はパサンシェルパを予定している旨。帰国前日パサンに会いクンバカルナノーマルルートのアテンドを依頼。32歳の若者でアマダプラムへは7回ガイドしており、日本人とのEXPも多く日本語も話せる。クンバカルナへは登ったことはないが、魅力ある山で登りたい意向。同山ノーマルルートは仏の初登攀ルートで困難ではあるが他の山にはない魅力がある旨を強調する。

5月28日13:20/TG320カトマンズ発、バンコク乗換5月29日TG660にて羽田22:30着



4月29日Dudh Pokhari(テュダポカ)4500m BC予定地。左からキッチ・シャルパ・メバルの各テント



5月3日ヤマタリー氷河4800mからのKumbhakarna(クンバカ)7710m。右手前の懸垂氷河奥が取付き

HCL 学校実技山行 / 十二ヶ岳

西の湖キャンプ場をベースに学校初めての泊まり山行です。一日目は足和田山。西湖から直登のコースでかなりの急登の連続に息切れしながら約一時間半かけ五湖台へ到着。雄大な富士山を堪能しつつお昼を食べ下山。標識が整備されておらず、分かりづらい道で地図とコンパス片手に論議の連続でした。夜は温泉で汗を流した後夕食はすき焼き、とても美味しかったです。食後、翌日に備えロープワークの復習をして就寝。



十一ヶ岳の下り

二日目は毛無山から十二ヶ岳です。朝7時薄日が指す中出発、西湖畔沿いから登山口より長い急登をひたすら登り、何度か休みながら毛無山へ。その先、一ヶ岳から十二ヶ岳まで登っては下っての繰り返しが続く、岩場・鎖場もかなりあり、特に十一ヶ岳付近は30m程の岩場を下りて又登るといった一番の難所です。緊張の連続でしたが講師の方々にサポートして頂き無事クリアできました。

今回の山行は今迄の総復習となりました。これからが益々楽しみです。

横浜こぶしの会 斉藤依子



西湖畔

第4回 全国基金担当者会議

参加報告 田村

2011年6月18日19日

神奈川県三浦市 マホロバ・マインズ三浦にて

参加者 18日：田村、19日：三上

内容

遭対基金の適用除外運動の経過と今後の活動：斉藤理事長より

改正保険業法により運営困難になった自主共催を救済するための再改定法案は5月に施行された。しかしこの再改定法案も各共済の復帰を認めるものではなく、我々としては無条件に受け入れられるものではない。5年後の見直しや、TPP（環太平洋戦略的経済連携協定）の問題もあり、「共催の今日と未来を考える懇話会」の活動は継続してゆく。

労山としては個人会員制度にも関係することであり、今後も慎重に対応してゆきたい。

討議内容

資料としては、加入者数と交付率の推移、アンケート結果、事故事例と給付状況などが示されたが、会議では、アンケートでの意見収集にもなった以下の3つのテーマに対する討議が主に行われた。

1. 救助捜索について
2. ドアツードアについて
3. 3倍交付について

とくに2、3に対しては様々な問題や見方があり、多くの意見の発言があった。意見の集約にまでは至らなかったが、「問題点に関しては改善が必要」との合意が得られたように思う。

以上

新スポーツ連盟神奈川県連盟第43回定期総会参加報告

副理事長 田村和寿

2011年6月11日(土)

参加者 理事：磯部、

代議員 池上、小林、当山、田村

3つのスローガン。(3つめは今回の震災に対して追加された)

県民のスポーツ要求に応え、多様で魅力あるスポーツ活動を旺盛にとりくみ、総合的スポーツ組織である神奈川県連盟を強く大きくしよう。

自主的な活動を大いに広げ、フェアプレイ、スポーツマンシップをはぐくみ、地域に根差したスポーツ文化を創造しよう。

東日本大震災の「被災地復興支援」にとりくみ、平和で安全な日本を再建し、心置きなく、無条件にみんなでスポーツが楽しめる社会を実現しよう。

労山からの発言：活動内容の紹介

会員数の割合からして、新スポの活動にもっと関わるべきなのだが、人材不足でできないのが現状で、申し訳なく思っています。

組織的には人数が高齢化に伴い減少方向です。ちまたでは山ガールや山ボーイなど若い方で山に興味を持たれた方もいますが、取り込むまでには至っていません。労山としては、個人会員制度の導入検討も行っています。

外部に向けての活動としては、クリーンハ

イキングの他に、岩場での清掃活動を紹介させていただきます。いずれも他の山岳団体、クライマーとの協働になります。厚木市の広沢寺温泉そばの岩場では、毎年の清掃集会で林道のゴミ拾い、里山づくりの手伝いを行っており、「どんどん岩場を使ってほしい」と地元の方から言われるほど良い関係を築くことができました。これは全国的にも珍しい事例だそうです。一方、湯河原・幕山公園の幕岩では、クライマーによる落石後、一部の岩場が使用禁止となり、行政との交渉や清掃活動を行っていますが、うまくは行っていません。

3.11の震災以降は、自粛ムードや登山道で落石・崩壊が心配されたことから活動は下火になりました。一方、被災地に対して何かしたいという気持ちは強く、各会に義援金・支援金の募金が行われました。全国労山ではすぐに会員の安否確認、現地調査、支援金・支援物資の収集と提供などを行いました。支援物資は主に登山用品ですが、ザック、ウェア、マット、コンロなどは被災地では実用品であり、喜ばれたと聞いています。

神奈川県連としての活動も検討中ですが、まとめ役がおらず、具体的な活動には至っていないのが現状です。かわりに東日本大震災ボランティアステーションを紹介しています。

その他報告

新しくバトミントン協議会が加盟しました。

以上

勤労者山岳連盟の成立と新日本スポーツ連盟・神奈川県連盟

2011.7.5 会長 中山建生

県労山と新日本スポーツ連盟について

(1) 基本理念と運動

私たちの組織 = 団体である神奈川県勤労者山岳連盟の成立と新日本スポーツ連盟・神奈川県連盟とはどのような関係にあり、今日、共同した活動や展望を持っているのでしょうか。

多くの連盟員は、新スポ(前記団体の略称とする)がどのような団体で構成され、何を目標としているのかを知らないと思います。県連盟の毎月のニュースとともに新スポの活動を載せたニュースが配られていますが、関心が薄いために読まれないことがない、しばしば聞かれています。7月の常任理事会ではまず新スポと

の現在、そして将来の在り方を決めるためにはそもそもの関係や、各団体が目標としたものをつぶさに知ることであるとしました。しばし、それぞれの組織の誕生と歴史をふりかえってみることで、現在のことを皆さんも知ることができると思います。

神奈川県勤労者山岳連盟(以下県労山と略称する)は1963年に日本勤労者山岳連盟の誕生に刺激され、1966年に「川崎」と「横浜」に山岳会が結成、後に「湘南」に山岳会が誕生したことを期に1968年11月に県労山として全県の登山運動を推し進めるために誕生しました。

当時の県労山の目標は全国連盟の「呼び掛け」と「趣意書」に理念が示されたとおり、神奈川県において登山の普及と前進、事故防止、山岳会運営の民主化、海外登山の普及、登山環境の整備と自然保護を訴えて、働くものたちに結集し、

新たな登山の前進に力を注ぐよう訴え、会員数は500名（10山岳会の結成）を目標に会員拡大に取り組みました。

会員の拡大は急速に進んだ反面、運営には長けた人材があっても登山の知識と技術では他の日本山岳会や日本山岳協会に遠く及ばなかったのです。県労山のスローガンは「ハイキングからヒマラヤまで」としてそれぞれの環境や要求にしたがって多様な登山を求めました。当時、一般的な市民の感覚は、山岳会とはアルパイン＝岩と氷の世界で、ハイキグなど女子供のする児戯（子供の遊び）と揶揄され、登山そのものが先鋭化され一般に馴染むようなものでなくなっていました。

また、山岳会の運営は会長の一存、つまり、徒弟制度がまかり通り、「会長が黒と言え、実際は白であっても口答えしてはいけない」とされ、不満を言うものは退会処分や罰を加えた事件が度々起きたことから、一般の人達からは「山岳会とは恐ろしい団体」と言われたこともありました。こうしたことは事故にもつながり、事故原因をめぐる争いが生ずるか、無視されるかしてスポーツマンとしてフェアな態度が取られずに、責任を放棄したことが会員の家族や遺族から指摘されることもありました。登山が国民のスポーツ要求として実現される中で、このような山岳会運営や問題意識では発展しないと、新しい登山運動として勤労者山岳連盟は前記した基本方針を掲げたので、しばらくは労山と既存の山岳団体とは運動をめぐり感情的な対立も生じました。

1960年代からの文化・スポーツをめぐるの理念から組織の拡大にまでつながった争いでもありました。今では他の山岳組織との共同行動がいくつものできるようになりました。神奈川においては県労山の創立が先になり、後に新スポが結成され、県労山は組織の要となり、人事や活動の大半を担っていました。今日では他のスポーツ団体との発展から種目スポーツのひとつとしてここに加わっています。新スポに加盟する団体はマラソン、水泳、卓球、テニス、サッカー、ゴルフ、剣道などの種目スポーツ団体です。登山もそのひとつです。

それでは新スポの目標を見てください。新スポは「フェアプレイ宣言」を掲げて、スポーツの真の発展のためにこれを大切にしています。5段の構成となり、一段目はスポーツ会の歪みや発展を害する問題を明らかにしました。

では2段目の文章を引用してみよう。「スポーツは本来、人間が人間らしく発達するために、また生活をより豊かに向上させるために、人類が生み出したかけがえない文化です。個人のレベルでは健康と楽しみをもたらし、技術の習得と能力の発揮による自己表現、達成感、そして他者との交流と連帯を創り出します。社会レベルでは、社会関係を豊かにし、諸国民のそうご理解と有効を促進し、平和に貢献します」と宣言しています。

この考え方は古くは人間復興＝ルネッサンス、そしてヨーロッパ各地のスポーツ運動の成果とつながっています。国が疲弊し、戦乱や紛争を繰り返しているときにはスポーツの実現はありません。日本でも第二次大戦では多くのスポーツを愛する人達が戦地に向かったのです。近代スポーツの価値は多くの人達に認められ、日本だけでなく国際的な組織としても広く目を向けて活動をしています。

新スポへの加盟は県労山の創立の目標とも一致し、相互にスポーツの発展のために尽くすとした合意の上に立っています。登山者の要求として自然保護や登山環境の整備、労働時間の短縮や待遇の改善、会議室などの設備の新設、つまり行政へのスポーツ全体の予算要求と制度的な要求を県や国に示しました。この要求実現は遅々として進みませんが、いくつか行政と関連した活動や要求の実現した例は、三浦市とのクライミングボードの設置を実現しました。鷹取山の岩場利用に関しては署名を集めて登山者のゲレンデとしての利用を継続する旨、横須賀市と協定を結びました。今日ではさまざまな団体や個人との共同活動が実現しています。もちろん、こうした登山者に直接関わる運動の主体は県労山の活動となりますが、新スポへに結集する他の人達にも大きな援助をいただきました。行政交渉は登山者一般の人達の利益をも守るために組織の力が大きければ大きいほど有効です。

県労山の事務所に出入りする事務局長さん、各委員の人達は新スポへに結集する他の人達の活動を目にすることができるようでしょう。最近新スポとの日常的な活動にはほとんど関わっていませんが、登山の普及という課題に、過去に「富士登山」を一緒に行なったことがあります。その後、アルプスや八ヶ岳公開登山でも共同した活動を組み、お互いの交流を深めましたが10年前には途切れてしまいました。県労山の規約に、新スポの呼び掛けにはお互いに協力して日本のスポーツを豊かに、前進させるという気高

い目標があります。登山者が日本の、あるいは身近な神奈川にどのような関わりを持つのかという当事者としての問い掛けです。

県労山は創立して今年で43年を過ぎます。県労山の今日まで、遭難事故の多発した時期について、組織の拡大と前進についてさまざまな問題にぶつかり、間違いも成果も、反省も教訓をも得てきました。その歩みは一直線ではなかったのです。皆さんにはその都度総会や理事会で報告し、自らの歩みと将来を決めてきました。今は矛盾や問題点、そして課題や目標を確かめて、なによりも先人が私たちの残した活動の成果を次の世代に伝えることです。

県労山の会員数にみた組織力と行動力は鷹取山の問題に取り組んだ当時の一丸となった結集と比べて大きく質的な低下をしています。こうした現実是我们のものの見方にもつよく影響を与えています。第一回の書き出しが私がお勧めしました。次からは皆さんが意見と要求を示すときです。

新スポに関する疑問や意見がありましたら連盟事務局まで申し出て下さい。今後、実際に新スポの運動に関わった人達からの報告を得たいと考えています。新スポの毎月発行されるニュースは他の団体の活動や取り組んでいる問題を伝えています。改めてニュースを読んでみましょう。

7月常任理事会 報告

実施:2011.7.4 報告者:中山建生(会議で決定)

常任理事会出席者:中山建生・後藤真一・田村和寿・池上準子・三上茂・海輪利昭・大用ユキ子

欠席者:西川憲男・清藤秀子・三瓶健・増田徹(欠席連絡あり)

開催場所と時間:県連盟事務所にて 19時20分より21時30分 司会:池上準子(敬称略)

報告事項(確認事項)

- (1) 東日本大震災ボランティア活動:7月7日(木) 19時より連盟事務所により説明会
神奈川の参加者への活動予算について:実費負担を9月理事会にて協議(予算化の方向)
東京ほか関東ブロックの活動:神奈川県、横浜市などの企画についてはニュースに掲載。
- (2) 2011年度加盟団体の調査:6月に総会、これにより人事の変更 新体制の確認をする。
- (3) ナマステメール:現在10人程度 情報提供を求める旨再度通知。
- (4) ハイキング委員会(清藤文書報告):中山が要点を口頭にて補充。
十二ヶ岳の体験からの教訓。装備、講習内容の基準と整備、指導の明確化をはかる。
- (5) 教育部活動報告(後藤):6月、7月の予定と実施の内容。
- (6) 特別基金担当会議:6月18日から19日参加:田村和寿・三上茂
従前よりの内容のまま、具体的な討議の進展はなし。
- (7) 新日本神奈川県スポーツ連盟総会 出席:磯部・田村・池上・小林・当山 川崎市にて開

催

県労山より2名の理事の選出を求められる(現在磯部のみ)。スポ連と労山の関係、加盟の意義や活動について内部で討議を進める。双方での意志疎通をはかる。

(8) 救助隊総会:7月10日連盟事務所にて、活動のまとめと2011年度の方針

公的機関との連携 秦野遭難対策協議会(丹沢大山)への要望

(9) 自然保護委員会:クリーンハイクのまとめ(編集)、オリンピックからの提案の取り組み

構成団体としての役割分担はいかに

(10) 理事会運営について、三上より理事の呼び名を「さん」とし人格を尊重する立場とする。

討議事項

(1) 各部・委員会の交通費の支払いについて予算化をはかる。

事務局長会議など連盟が召集する会議をも対象とする。他の委員会活動などについても詳細を調べたうえ9月理事会で協議する。

(2) 情報機器 スキャナーの性能が不足、新規変更などにもなう予算を計上する。

スキャナーについては8月の常任理事会で決定する(購入予算4万円以上)。

(3) 事務局長会議の通知、会議のレジメは事務局で用意する。7月12日(火)会議。

(4) 9月規約改正臨時総会の準備:各会での検討を促す。資料は再度用意する。

(5) 8月連盟ニュース:概ね原稿有り、未到着は再度担当者から要請

報告事項をめぐる具体的な意見や指摘は、各担当者から部および委員会に伝える。

6月 事務局長会議 議事録

2011年6月14日(火) 7:20開始

司会：池上事務局次長 (敬称略)

出席者：小池(川崎労山)・伊藤(川崎HC)・砂原(柴
 笛)・神谷(AC横浜)・丸尾(横浜HC)・三上(こぶし)
 ・中河原(藤沢)・青木(ナーゲル)・蝦名(相模AC)
 ・藤本(みずなら)・磯部(地平線)・栗田(やま++)
 ・青柳(山ブキ)・渡辺(メーグリ家)・中田(M&C)
 理事等：三上(機関誌)・池上(事務局次長)・田村
 (副理事長)・西川(事務局部員/記録)

【 】県連からの連絡事項(連盟ニュース6月号
 参照)

2011年平和行進：9名参加。来年は早めに呼
 び掛けたい。(13頁参照)

東日本大震災：(3頁参照) 「義援金」
 「支援物資」「ボランティア」について掲載。
 会員に必ず連絡して下さい。

2011丹沢クリーンハイク：(9頁参照) 雨
 だったが79名の参加が有り、75.4kgのゴミを
 回収。反省として、怪我人が出た事、ヒルが
 多かった事、またあの天気予報で何故中止し
 なかったか等の意見があった。

・ 参加した者として、ヒルはいやだったが、
 それほど大変では無かった。

・ 連盟員ではない神大ワンゲル部の参加者
 が一番多いが、各会の判断で中止して良か
 ったのか。「雨なので林道コースを半日やるの
 で宜しくお願い致します」と指示して貰った
 方が良かったのでは。

マナステメール配信希望者：現在10人程度
 ktam555+namaste@gmail.com に、空メールを!

臨時総会準備：(日程・会場は3頁参照)

議長/藤沢(西口) 副議長/川崎HC
 (伊藤) 書記/横浜HC()/AC横浜
 (神谷) 資格審査/川崎労山()/相模A
 C() 選挙管理/川崎柴笛()/み
 ずなら()

・ 夜は9時までにして欲しい。

2011 加盟団体調査表：総会が終わりました
 ら、事務局西川まで提出して下さい。

全国ハイキング交流集会in伊豆：(6頁参照)

<その他>

遭対基金・保険について教えて下さい。

<AC横浜> 遭対基金加入を義務づけ。お試
 しは、ハイキングはナシでもOK。ロープを使用
 する時は短期(掛け捨て)に入って貰う。

<相模AC> 遭対基金加入は必須。但し、途中
 加入の場合、代わる保険に入って居ればOK。

<山ブキ> 希望者となっているが、全員1口は

加入。お試しや他組織の方との山行は、労山
 の「短期掛け捨てプラン」に加入。審査も無
 く、うるさい事を言われないので、日帰りには
 良い。

<地平線> 加入は自由だが、100%加入。海外
 に行く者は5口以上加入。

<川崎HC> 基本的には任意。85名加入。他の
 保険に入っていれば強制はしない。平均は3口。
 縦走班は5口、ハイキング程度は3口。お試
 し山行は日帰りなので特に勤めていない。

<M&C> 規約を作っていないが全員加入。お試
 しは1名いたが保険に入っていた。今後どう
 対応するかは検討事項。

<川崎柴笛> 全員加入。お試しは、ハイキン
 グ程度は未加入でもOK。岩やロープを使う山
 行は、短期の保険を勧める。

<川崎労山> 全員加入。縦走の人が5口で、岩・
 沢をやる人は10口加入。お試しは、岩・沢は
 やらず、日帰り山行・ハイキングを希望する人
 に保険をかけていない事を了解してもらって
 いる。

<横浜HC> 必須。お試し山行は、去年から掛
 け捨てに加入する事を強制した。

<こぶし> 必須。お試し山行はなし。

<みずなら> 主に岩・沢嗜好の方は10口、ハ
 イキング嗜好の方は5口、他保険に加入の方は会
 員としての和を保つために1口加入しています。

お試し山行の場合は必ず短期掛け捨て保険に
 入ってもらいます。

<やま++> 全員加入。正会員になった時に最
 低5口を勧める。男性10名全員が10口(1名は
 他の山岳保険と併用)加入。女性は5口加入。
 お試しは無く、準会員になってもらい1~2口
 加入。問題はOBと行く時にどうするか、沢に
 も行くので検討事項。

<藤沢> ほぼ全員加入。ハイキングが3口、縦
 走・岩・沢の人が5口、アルパイン系・海外の人
 が10口、平均が4.7口になっている。お試
 しは考えていない。労山の200円/月の「賠償保
 険」に7名が加入。

<ナーゲル> 皆さん有り難うございました。
 ナーゲルは殆どが加入しているが、他の山岳
 保険に入っていればOK。お試しは、そこが一
 番議論になったが検討中。記録したので、表
 にして配布します。

東日本大震災ボランティア<調査用紙>：
 6月末までに提出のお願いをしたが、現在10
 名の方から<調査用紙>がきたが、事務局長
 さんに再度用紙を添付してお願いする。対応
 について常任理事会で検討する。

<田村副理事長> お試し山行をされる時は、

会が主催するので、主催者側の責任が有るので保険に入るべきです。労山にも1人40円の掛け捨ての保険を用意していますので、是非かけて下さい。

先週リーダ学校の実技でヒヤリハットがあった。私自身の事故で、読山山行で最後の所で尾根を下り、河原に下りる尾根の末端の所で、土がぼろぼろだったのでトラバースして河原に下りようとした。黒土が積もったトラバース路を、自分が確認した時は大丈夫だったが、実際に体重を移したらズボットと言う感じで崩れまして、緩斜面だったが10m程滑落した。この程度のかすり傷と胸を打った程度だったが、リーダ学校の実技では絶対にやってはいけないヒヤリハットをしてしまい反省しています。場所は西丹沢の篝杉の対岸です。

【2】各会からの報告(怪我・トラブル等報告)

<川崎HC>伊藤健司。100名。震災の募金が5/11現在で89,950円集まったので全国に送った。会員の要望で、1000万円以上集まった義援金の使途を報告して載きたい。総会が今月の26日(日)に実施。今準備中ですが役員のみなり手がいなくて困っている。男女比率は半々ですが、特に女性のみなり手がいない。山行のヒヤリハットなし。6/5(日)例会山行を「津久井城山」で「野点」を実施。

<メーグリ家>渡辺康三。9名。

<山ブキ>青柳百合子。7名。会員2人が屋久島に行った時の話。60歳代の男女2名パーティーの男性1名が行方不明。雨の中淀川登山口から宮之浦岳に向かい、途中で女性が雨に濡れて山行断念。黒味岳分岐で分かれ、男性1名が宮之浦岳に向かった。未だに行方不明。

大山三峯の一般道でクマが出た。子供達のワ～と言う声で逃げた。5月9日(月)体長1m程のクマ。

<相模AC>蝦名政次。32名。6月19日(日)に総会。退会予定者が数名いるので若干名減る。

<藤沢>中河原昭夫。98名。ヒヤリハット有り。67歳女性会員、歩行中足がふらつき、数回休憩して回復するのを待つ。危険な箇所だけでなく事故にならずに済む。原因は、当日途中で頭痛に服用した鎮痛剤の副作用による眠気が原因の様である。防止策は、注意書きを良く読み副作用等を確認する事。リーダに相談する事を確認した。夏山合宿は8/20(土)北沢峠集中で行う。現在3コースだが、簡単なコースを2コースプラスで計画。

<ナーゲル>青木義隆。22名。多い時は42名いたので半分になった。個人山行が中心になっている。

<やま++>栗田 彰。14名。平均年齢が50歳を越えた。山行のヒヤリハットなし。

<みずなら>藤本慶子。40名。5/14(土)に読山山行があったが参加者が少なく反省。広沢寺の岩トレでヒヤリハット有り。

<横浜HC>丸尾真知子。51名。私の手違いで山行報告を間違えて送り申し訳りませんでした。会山行は雨で殆ど流れてしまい、個人山行が中心になった。4月からの新体制で、アルパインのリーダ学校を卒業した女性が教育部長になったので、自前で教育が可能になった。又新役員でホームページに詳しい方が成り、改造にかかっている。10月に完成予定。会員専用ページを作る予定。

<川崎労山>小池秀子。41名。昔70名近くいたので、寂しい数字になった。最近はホームページを見て入る方が多いが、古い会員で山行しない名前だけの会員が辞めている。ヒヤリハットはナシ。6/26(日)に総会があり、役員が決まり次第「調査表」を送る。

<M&C>中田正之。7名。連盟ニュースに山行報告が出ている。ヒヤリハットはナシ。会は3月に発足。役員はそのまま変更なし。「加盟団体調査表」も変更なし。ホームページを作った。検索は、「M&C」と「クライミング」又は「登山」を入力。参加者数のところで(2+5)は、会員が2名、他会の参加者が5名となる。会員が多くなる様にしたい。プラスの他の会の人にも保険に入っていると思う。確認する。

<こぶし>三上 茂。20名。ハイキングリーダ学校に2名参加しているはずだが、会員の名前が出て来ないので心配。ホームページは現在3つ有る。先月の例会の参加者が13名といつもより多く参加したが、これは例会でやる内容をホームページに載せたのが良かったと思う。

<地平線>磯部津輝子。7名。クリーンハイクの水質検査を実施。一の沢に2人で入りヒルは20数匹。1匹を家まで持ち帰り騒動に。本部にいた高橋さんは100匹捕まえた。登山時報で時々掲載されている写真家の鈴木さんに、長野の境村や、只見の震災のリポートを載せてもらう予定。

<AC横浜>神谷 敬。クリーンハイクの前日に水質検査で沢の水を取るとの事で、会の沢講習を行う。水無川本谷に行く。総会は今週の土曜日なので、「調査表」を提出する予定。

<川崎柴笛>砂原浩二。35名。6/4(土)~5(日)鹿島槍で慰霊祭を行う。昭和59年に6名亡くなり、毎年実施。3パーティーに分かれて実施。会員13名が参加。私は鹿島槍のピークハントの参加。朝4時に出て、帰って来たのが夜の8時だった。高千穂平への上りで1名が足をつた。ツムラの68番(芍薬甘草湯)が無かったので、アミノバイタルを飲んだら治った。

<司会>終了後、会費200円で懇親会をやりますので、時間の有る方はご参加下さい。

神奈川県勤労者山岳連盟各会の活動報告と予定

川崎勤労者山岳会 <http://www.geocities.co.jp/kawasaki/rousanhp/>
報告：小池秀子 計41名(男27 女14)

6/4-5 御坂・三つ峠(5)	6/18-19 八ツ岳・編笠山(2)	7/23-24 山域未定縦走
6/4-5 奥秩父・小川山(2)	(他 雨の為3件中止)	7/24-25 羊蹄山
6/12 奥多摩・真名沢(10)	7/1-3 石巻にてボランティア	7/30-31 湯檜曾川
6/18-18 谷川・烏帽子奥壁南稜(4)	7/9 西丹沢・鬼石沢	

川崎柴笛クラブ 機関紙「柴笛レポート」 <http://www.shibabue.com/page/page-1.htm>
報告：砂原浩二 計35名(男23 女12) 平均47歳

6/4 鹿島大谷原(4)	ルート(3)	6/25 鎌倉山(1)	(2+1)
6/4 鹿島東尾根(4)	6/12 甲府幕岩(1+3)	6/25-27 立山(3)	7/2-3 教育山行「沢」水
6/4 鹿島槍(4)	6/12 鎌倉山(1)	6/25-27 甲斐駒ヶ岳(1+1)	根沢・日原本流(13)
6/5 鹿島慰霊祭(13)	6/18-19 雷鳥沢・剣沢(1+1)	6/26 ホウズケの沢(1+1)	7/8-9 羅臼岳から硫黄岳
6/4 瑞牆山(2)	1)	6/26 鷹ノ巣山(1+1)	(1+1)
6/5 城山(2)	6/18-19 教育山行「ピバー	6/26 小川山(2)	7/9 一ノ倉沢凹状岸壁(2)
6/7-10 ベテガリ岳・神	ク」浅間尾根(10)	7/2-3 甲斐駒ヶ岳・鋸(1+1)	7/9 塔ノ岳(1)
威岳(1+1)	6/19 黒伏山中央山(2)	7/2 黒伏山南壁三十路ルー	
6/11 高水三山(8+1)	6/21 マスキ嵐沢(1+1)	ト(3)	
6/11 黒伏山南壁三十路	6/25 高水三山(1+2)	7/2-3 草津白根トレラン	

事故や怪我の報告

7月2日に黒伏山南壁をクライミング中ホールドが剥がれて15m滑落しました。右肩を脱臼して駐車場まで下りて救急車で病院へ行って処置をして貰い自宅まで帰った。

アルパインクラブ横浜 会報「山賊」 <http://acy.jpn.org/>
報告=岸 直哉 計38名(男23:女15) 平均 歳

6/3 三ツ峠(2)	6/11-12 南八ヶ岳(阿弥陀岳,赤	(1+1)
6/5 忍野村(忍野トレイルレース)	岳,横岳)(1+1)	6/24-25 笛吹川東沢釜ノ沢西俣(3)
(4)	6/12 比良山系・武奈ヶ岳(1+1)	6/24-25 ボルネオ島・キナバル山
6/7-8 谷川岳・烏帽子沢奥壁南稜	6/13 奥秩父・小常木谷(1+1)	(1+1)
(2)	6/15 富士山(2)	6/26 蔵王山(2)
6/11 西丹沢・マスキ嵐沢(3)	6/20 谷川岳・烏帽子沢奥壁南稜	6/28 奥秩父・竜喰谷(1+1)

横浜ハイキングクラブ 会報「四季」 <http://yokohamahc.web.infoseek.co.jp/>
報告=丸尾真知子 計50名(男19:女31) 平均62.4歳

6/9 室内例会(37)	6/5 三浦アルプス(1)	6/19 鍋割山(1)	7/2 榛名山(ハズメ)
6/5 三ノ塔・塔ノ岳(10)	6/8-11 飯豊連峰/石転び	6/20 大楠山(4)	7/2-5 利尻～礼文
6/4-5 十二ヶ岳(県9)	沢(2)	6/22-23 雨飾山(2)	7/9 両神山
6/1 七ヶ川～宮地山(1)	6/11 日光白根山(下見・	6/25-27 北岳(3)	7/11 あじさい山
6/4 檜洞丸(3)	4)	6/26 本社ヶ丸(4)	7/24-25 八ヶ岳縦走
6/4 蛭ヶ岳(2)	6/12 花咲山(8)	6/27 御坂黒岳(1)	7/29-30 西穂高
6/5 鶏冠山(2)	6/15 根子岳～四阿山(下	予定	7/31-8/2 白山
6/5 檜洞丸(5)	見・1)	7/14 室内例会	

横浜こぶしの会 会報こぶし <http://www.justmystage.com/home/smikami/index.html>
報告=三上茂 計20名(男14人 女6人) 平均 歳

6/9 室内例会(13)	6/18-19 巻機山(3)	7/14 室内例会	7/28-31 聖岳
6/10 檜洞丸(3)	6/28 役員会(5)	7/15-19 裏銀座	
6/11 沢トレ中止	7/2 沢トレ葛葉川(7)	7/26 役員会	
6/18 高麗山	7/9 円海山、天園	7/28-31 穂高	

藤沢山の会 会報「稜線」 http://outdoor.geocities.jp/akio_saito21/
報告=中河原昭夫 計98名(男43:女55) 平均64歳

6/1 運営委員会(12)	6/3 丹沢・檜岳(4)	6/8 室内例会(47)	6/19 丹沢・塔ノ岳(7)
6/1 丹沢・沖ビリ沢・縦ノ	6/4 丹沢・塔ノ岳(3)	6/9-10 北関東・皇海山	6/19 丹沢・蛭ヶ岳(4)
木沢(1・他)	6/4 丹沢・大室山(1・他)	(1・他)	6/22 丹沢・菰釣山(3)
6/1 丹沢山(1)	6/4 奥秩父・太刀岡山(岩	6/12 丹沢 石棚沢(1・他)	6/22 室内例会(48)
6/1 伊豆・天城山(2)	登り実技・6)	6/14 富士周辺・鶴ヶ鳥	6/23-26 東北・岩木山、
6/3 丹沢・檜岳(4)	6/5 奥多摩・戸倉三山(1	屋山(10)	八甲田山(4)
6/4 丹沢・湯舟山、不老	・他)	6/18-19 奥秩父・金峰山	6/24 南関東 鎌倉天園(3)
山(会川・16)	6/7 機関誌印刷・発行(14)	(1・他)	次頁へ

6/25 丹沢・塔ノ岳(9)	7/2 上信越守門岳(1+他)	7/7 富士山(3)	7/27 室内例会
6/25-26 北関東ノ白根山(11)	7/4 運営委員会	7/7-8 上信越高峰山(18)	7/27-29 大菩薩小室川谷
6/26 丹沢・葛葉川本谷(沢登り実技・12)	7/5-24 ヨーロッパアルプス(4)	7/12 機関誌印刷・発行	7/29-8/2 北ア・鷲羽岳・黒部五郎岳(10)
7/2 丹沢・表尾根縦走(6)	7/6-10 北海道・幌尻岳、十勝岳(8)	7/13 室内例会	
		7/17 富士八合目辺(5)	
		7/18 入会説明会	

相模アルパインクラブ 機関紙「こだま」 <http://sagamiac.sakura.ne.jp/>
報告:水村和也 計28名(男20:女8)平均56.4歳

5/21-22 甲府幕岩(2)	5/31 西丹沢(1)	6/11-12 秋山郷・布岩(クラック)(2)	7/29-7/17 インド・キン
5/22 マスキ嵐沢(6)	6/4-6 小川山・湯川(1)	6/11-12 西丹沢/箒杉対岸周辺(3)	ノール チリン~カフ
5/22 裏六甲 百丈岩周辺(1)	6/4-5 湯川(2)	6/16 甲府幕岩(4)	ンのトレッキング(1)
5/26-27 小川山・湯川(1)	6/4 籠坂~石老山(1)	6/15 大山(1)	6/25-26 富士山(1)
5/27-29 西岳・荒倉山(1)	6/5 兜岩(2)	6/19 総会(18)	
5/25 兜岩(3)	6/6 ヤビツ峠~ヨモギ峠(1)		

他会に知らせたい事項。

30~40代の会員の退会が目立ち、合計4名の退会。

運営委員長や部を縮小または廃止。

年間計画表の見直し。7月からの年間計画を3月から前倒しして安全登山を目指す。

事故や怪我の報告

6月13日頃 小川山 クラック登攀中カムが外れて右くるぶし付近の骨折。

みずなら山の会 <http://home.h02.itscom.net/mizunara/>
報告:藤本慶子 計39名(男25 女14)

6/8 例会	指山(3)	1)	7/13 例会
6/9 奥鬼怒(1+1)	6/25 大倉・塔が岳・丹沢山(往復)(1)	7/1-2 くるみの里-湯の丸山(3)	7/16-17 烏海山(4)
6/12 ドンデン山(1+2)	6/26 大倉・塔が岳・丹沢山(往復)(1)	7/2-3 妙高(5)	7/16-17 ナルミズ沢(4)
6/16 大倉・塔が岳(往復)(1)	6/26 勘七沢(1+1)	7/2 鷹取山 岩トレ(2)	7/23 モロクボ沢(6)
6/19 勘七沢(8)	7/1-2 竹宇駒ヶ岳神社-甲斐駒ヶ岳-北沢峠(1+)	7/9-10 会津朝日・守門岳(5)	7/22-24 白山(6)
6/19 三ツ峠 岩トレ(1+1)		山行予定	8/4-8 梅池-白馬-雪倉
6/24 石割山-山伏峠-高			8/13-16 扇沢-読売新道-赤牛-水晶-蓮華

カモの会 <http://www.kamonokai.com/hp/index.html>
報告:古山健司 計58名(男42:女16)

6/4 鷹取山(1)	央稜(4)	6/11 早池峰山(1)	6/18 西丹沢/鬼石沢(2+1)
6/4 大菩薩(1)	6/5 北八ヶ岳縦走(1+1)	6/12 西丹沢/箒杉対岸周辺(2+1)	6/19 シンナソー(1)
6/4 三ツ峠(1+1)	6/5 飛竜山・雲取山(1)	6/12 伊豆 天城山(4)	6/23 丹沢塔の岳(1)
6/5 谷川岳/南稜・中央稜(1)	6/5 大野山(4)	6/12 丹沢/源次郎沢(7+2)	6/26 葛葉川本谷(4+3)
6/5 谷川 烏帽子奥壁南稜・中央カンテ(2)	6/5 天王岩フリー(2+1)	6/15 長者ヶ岳・天子ヶ岳(1)	6/26 三ツ峠(1)
6/5 谷川岳/南稜・中	6/5 三ツ峠(2)		6/27 三ツ峠(1)
	6/5 三ツ峠(1+1)		
	6/11 白水沢左俣(1)		

山ブキの会 報告:青柳百合子 計7名(男:女7) 平均65歳

5/3 陣馬山	6/9 弘法山	6/23 城山	ハイク 籠坂山
5/20 高尾山	6/16 高尾山	6/28 弘法山	7/28~30 仙丈ヶ岳
5/24 弘法山	6/18 雲取山	7/2 富士山(本六合目)	
5/27 弘法山	6/20 六ツ石(奥多摩)	7/18 新婦人 らくらく	

M & C <http://blog.mandc.moo.jp/>
報告:岡崎広士 計7名(男5:女2) 平均 歳

6/4 瑞垣不動沢(2)	6/19 甲府兜岩(1+3)	6/26 鷹取(1+多数)
6/5 三ツ峠(3)	6/26 城山(3+1)	
6/12 小川山(1+2)	6/26 太刀岡山左岸稜(1+1)	

寄せられた紙誌

「労山おかやま」「都連盟ニュース」「ちばニュース」

藤沢山の会「稜線」、アルパインクラブ横浜「山賊」、相模アルパインクラブ「こだま」

県連のスケジュール

7月		8月		9月	
1	金	1	月	1	木
2	土	2	火	2	金
3	日	3	水	3	土
4	月	4	木	4	日
5	火	5	金	5	月
6	水	6	土	6	火
7	木	7	日	7	水
8	金	8	月	8	木
9	土	9	火	9	金
10	日	10	水	10	土
11	月	11	木	11	日
12	火	12	金	12	月
13	水	13	土	13	火
14	木	14	日	14	水
15	金	15	月	15	木
16	土	16	火	16	金
17	日	17	水	17	土
18	月	18	木	18	日
19	火	19	金	19	月
20	水	20	土	20	火
21	木	21	日	21	水
22	金	22	月	22	木
23	土	23	火	23	金
24	日	24	水	24	土
25	月	25	木	25	日
26	火	26	金	26	月
27	水	27	土	27	火
28	木	28	日	28	水
29	金	29	月	29	木
30	土	30	火	30	金
31	日	31	水		

2011年度の全国的な規模の集会・会議予定

確保の基礎技術講習	6/19 10/2 12/4(相模原市)
全国山岳遭難対策協議会	7月 (東京・)
全国ハイキング交流集会	9月17日～18日日(静岡・伊豆長岡の予定)
自然保護講座	9月17日から19日(上高地)
東日本女性登山交流集会	10月1日～2日
全国救助隊交流集会	10月1日～2日
全国自然保護担当者会議	11月19～20日(日光市)

6月自然保護委員会報告 6/27 19時30分より21時過ぎ 県連事務所にて
 参加者(7名)=相模AC(渡辺)、川崎HC(大用)、藤沢山の会(高橋、萩原)、横浜HC(伊藤)、地平線(磯部)、こぶし(三上)、
 議題/報告集の校正作業。7月25日発行予定で作業を進める。7月上旬に校正刷りをPDFでメールする予定。

丹沢大山クリーンピア21(4/14)の総会報告をしました。総会では、提案事項として、山小屋周辺の新たなゴミや、廃屋となった山小屋等の山ゴミ対策の今後の展開(案)が出されました。